

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地		
新潟こども医療 専門学校	平成10年3月25日	小見 英晴	〒950-0084 新潟市中央区明石1-3-5 (電話) 025-241-0136		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
学校法人 新潟高度情報学園	平成10年3月25日	梶坂 昌業	〒950-0084 新潟市中央区明石1-3-12 (電話)		
目 的	学校教育法に基づき、教育・社会福祉分野において専門的な知識・技術と合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身につけた人材の育成を目的とする。				
課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・社会福祉 専門課程	保育科	2年(昼)	1736単位時間 H26年度(又は単位)	平成22年 文部科学大臣告示 第249号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	452単位時間 (又は単位)	2234単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	400単位時間 (又は単位)	92単位時間 (又は単位)
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人	133人	10人	11人	21人	
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> ■前期：4月1日～9月20日 ■後期：9月21日～3月31日 	成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ■成績表(有)無 ■成績評価の基準・方法について 学期末試験・中間試験に重点を置き、平素の授業態度・確認テスト・授業出席率等多面的に評定した総合点によってA～Dの4段階評定をする。上位A～Cが単位認定される。 		
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> ■学年始め：4月1日～4月14日 ■夏季：8月1日～8月31日 ■冬季：12月24日～1月7日 ■学年末：3月20日～3月31日 	卒業・進級条件	<ul style="list-style-type: none"> ・年間出席率90%以上 ・成績評価が全てC評価以上 ・学費および諸経費の年度内全納 上記全ての条件を満たすこと。 		
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ■クラス担任制(有)無 ■長期欠席者への指導等の対応 	課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■課外活動の種類 保育園・幼稚園・施設でのボランティア活動 ■サークル活動(有)無 		
就職等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ■主な就職先、業界等 保育園 幼稚園 施設 ■就職率※ 100% ■卒業者に占める就職者の割合※² 97% ■その他(任意) 	主な資格・検定	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教諭二種免許状 保育士資格 社会福祉主事任用資格 Microsoft Office Specialist Word 2010, Excel 2010, リトミック研究センター認定 幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格 1級 		

中途退学の現状	<p>■中途退学者 6 名 ■中退率 0.4 %</p> <p>平成27 年 4月 1日在学者 139 名 (平成 27 年 4月入学者を含む)</p> <p>平成28 年 3月 15日在学者 133 名 (平成 28 年 3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更</p> <p>■中退防止のための取組 補習授業、個別ガイダンス、保護者面談等、きめ細やかな個別指導を実施している。</p>
ホームページ	URL: http://www.kodomoiryoo.com

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

国家資格である保育士資格・幼稚園教諭2種免許状を取得するために、幼稚園、保育園等の児童福祉施設、社会福祉施設等での実習を行う。

規範意識が高く実践力のある教員、施設職員を育成することを目標とする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年4月1日現在

名 前	所 属
吉澤 克彦	新潟県教育カウンセラー協会 副会長
北澤 潔	学校法人 聖尚学園 認定こども園今町天使幼稚園 えんぜる保育園 理事長
山賀 亮一	社会福祉法人 新潟もぐら会 ポプラの家 施設長
田中 和枝	学校法人 新潟高度情報学園 新潟えきなか保育園 園長
小見 英晴	新潟こども医療専門学校 学校長
横堀 正浩	新潟こども医療専門学校 副校長
戸川 俊	新潟こども医療専門学校 教務主任
山田 すみ江	新潟こども医療専門学校 こども発達学科主任
石川 美穂	新潟こども医療専門学校 保育科主任
河合 純	新潟こども医療専門学校 こども未来学科主任

第1回 平成27年 12月22日(火) 13:30~15:00 於:新潟こども医療専門学校 1号館 132教室

第2回 平成28年 3月15日(火) 13:30~15:00 於:新潟こども医療専門学校 1号館 132教室

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

目指すべき職種を正しく理解するとともに、社会生活の基本的ルールを身につけ、社会に貢献する精神を育むことが求められる。そのために、実社会との緊密な連携・協力のもと、情報収集できる機会の充実を図り、現場体験活動を強化推進する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
基礎実習	幼稚園の機能と幼稚園教諭の職務について学ぶ。 子どもの実態を知り、指導や援助方法について学ぶ。	学校法人神宮学院 神宮幼稚園 寺尾幼稚園 親松幼稚園 他
教育実習Ⅱ	幼稚園の保育を実践的に体験し、幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を修得する。自分の理想とする教師像を具体的にイメージし、そのための自己課題を明確にする。	学校法人神宮学院 神宮幼稚園 寺尾幼稚園 親松幼稚園 他
保育実習Ⅰ	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深める。 保育所の機能と保育士の職務について学ぶ。 利用者のとのふれあいを通じて支援の機能。施設職員の役割について理解する。	学校法人神宮学院 あい保育園 新潟市立坂井保育園 社会福祉法人 更生慈仁会 十字園 他
保育実習Ⅱ	乳幼児への理解をさらに深め、発達段階に合わせた援助について学ぶ。	学校法人新潟高度情報学園 新潟えきなか保育園 優の森保育園 他
保育実習Ⅲ	児童福祉施設等(保育所以外)の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、児童福祉施設等の機能と保育士の職務について学ぶ。	聖母乳児院 けやき福祉園 他

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教職員は担当教科における指導をより豊かなものにするため必要な知識・技術の向上を図るとともに、新たな業務上の要請に応えるために自らの能力開発に努めなければならない。また教職員は指導力向上のため、教育・研修等を受ける権利を有するものとする。これに対して、学校はそれぞれの教職員の専門分野、経験および能力に応じて適切な研修を受けさせるよう努めなければならない。

このことは本校研修規程第2条に明記されており、教職員個々の指導力向上ならびに保育科全体の組織力強化に結びついている。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年4月1日現在

名 前	所 属
牛腸 和子	C o C o ・ ネット 代表
白川 初美	社会福祉法人美勢会 あいりす保育園 理事長
石澤 直樹	学校法人新潟高度情報学園 理事
小見 英晴	新潟こども医療専門学校 学校長
横堀 正浩	新潟こども医療専門学校 副校長
戸川 俊	新潟こども医療専門学校 教務主任
小熊 亜沙子	新潟こども医療専門学校 医療分野学科主任

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: http://kodomoiryo.com/?page_id=1100

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.kodomoiryo.com>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程保育科) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			リクルートガイダンス	自らが将来携わる職業に関する理解を深めるとともに、就職活動の流れ・実務内容を把握し、主体的かつ積極的に就職活動を行うことができる。	1 後 2 通	90	3		○	
○			HR	学級成員相互の連携強化ならびに各実習に際する事務連絡や伝達、書類作成作業等を行う、学級ごとに行われる科目。	1 通 2 通	32	2		○	
○			体育講義	生涯にわたって健康の自己管理ができる知識を身につける。又、定期的な運動が持つ生活習慣病予防について	1 前	16	1	○		
○			運動遊び	運動を行いながら知識の獲得を行う。様々な運動を経験し、特に幼児が楽しめる運動について理解し、実践する。	1 通	46	1			○
	○		情報処理 I	Word の効果的利用を実現するため、演習ではコンピュータの基礎知識を身につけ、キータッチの練習から日本語文書処理ソフトを用いた文書作成を学習し、コンピュータリテラシー能力を養うことを目的とする。MOS Word2010 検定合格を目指す。	1 前	60	2		○	
	○		英会話	英語読解力、ライティング力など、英語技能の総復習・向上を図ることを目標とする。文法事項の説明も行い、基本的な英語知識の定着を図る。	1 通	60	2		○	
	○		日本国憲法	憲法の基本原理、各人権規定の内容及び統治機構について学ぶことを通じ、法学的思考（バランス感覚）を身に付けることを目標とする。	1 前	30	2	○		
	○		総合学習	保育現場で使われる教材の名称や種類を学び、触れる。 実習等で活用できる教材（グッズ）を丁寧に作り、演じる方法、表現する楽しさや難しさに気付く。	1 通	60	2		○	

○			保育原理	保育の意義について明確な認識を持ち、その依拠する原因を理解する。また、地域における「保育所」の役割を、「子育て支援」という観点から吟味する。同時に、保育の原理及び保育の歴史の変遷と保育思想について理解する。	1 後	30	2	○		
○			教育原理	教育の意義について知る。教育に関する基礎的な理論・歴史の変遷、制度・法規・教育行政・教育方法・教育実践について理解し、自らの教育活動に活かせるようにする。	1 前	30	2	○		
○			児童家庭福祉	子どもをとりまく環境や、これまでの歴史を学ぶことで、今必要な知識は何かを学ぶ。保育・福祉の現場で必要とされる制度について学ぶ。	1 後	30	2	○		
○			社会福祉	家族がそれぞれ抱えている課題や現代の課題を理解し、家族や地域を支援する保育士の役割を理解する。社会福祉全般の制度を理解し、知識を深める。	1 前	30	2	○		
○			相談援助	保育・福祉の現場で、子どもや保護者に対して適切な援助ができるよう知識・技術を学ぶ	2 後	30	1		○	
○			社会的養護	社会的に養護が必要な児童などの家庭的背景を学び、地域生活、施設生活それぞれの支援に対する理解を深めていく。	1 後	30	2	○		
○			保育者論	保育者の資質や役割、サービス、研修等についての理解を深め、保育者の意欲を構築する。	2 前	30	2	○		
○			保育の心理学Ⅰ	保育者を指すうえでの、発達心理学の基礎を習得する。	1 後	30	2	○		
○			保育の心理学Ⅱ	保育者を指すうえでの、教育心理学の基礎を習得する。	1 前	30	1		○	
○			子どもの保健Ⅰ	こどもの健康を守り推進するという重要な役割を持つ保育士として、保育上必要な小児保健の知識を修得する。	1 通	60	4	○		
○			子どもの保健Ⅱ	小児保健の意義を理解し、根拠ある知識を深め、保育士として実践できるように技術を深める。	2 後	30	1		○	

○			子どもの食と栄養	こどもの身体の特徴を理解し、小児期に必要な栄養・食生活の重要性をそれぞれの時期に応じた食事の知識を習得する。	2 後	60	2		○	
○			家庭支援論	家族がそれぞれ抱えている課題や現代の課題を理解し、家族や地域を支援する保育士の役割を理解する。	1 後	30	2		○	
○			保育課程論	「教育課程」「学習指導要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」について理解を深める。 教育政策の変遷を学び、社会情勢や子どもの状況と教育の関わりを理解する。 保育計画の作成の留意点などを習得する。	2 前	30	2		○	
○			保育内容総論	生きる力が育まれる保育内容が、人格形成の土台となる乳幼児期にいかにかか知る。 5領域・養護について学ぶ。おおむねで表されるこどもの発達過程を学ぶ。 遊びの大切さや、遊びの実際と保育者の関わりについて考える。	1 前	30	1		○	
○			健康	こどもの身体機能の発達を知り、発達段階に応じた遊びの意義や内容について理解する。また、子どもが日常生活における習慣や、集団生活を通じた他者との関わり方、健康で安定した生活が送れるような幼児教育について学び、「健康」における問題点、それらの解決を目指すために保育者担う役割について考えていく。	2 前	30	1		○	
○			人間関係	こどもの誕生から人とかかわって成長していく過程を、発達の姿・心の育ちから理解する。子どもの内面に寄りそうことの大切さを保育者の資質として習得する。	1 後	30	1		○	
○			環境	周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う	2 後	30	1		○	
○			言葉	領域『言葉』の内容、その他の領域との相互性を学び、言葉の発達の大切さを理解することができる。	1 前	30	1		○	
○			表現 I	表現活動に必要な教材研究とその実践を通して、子どもの創作表現に適切な援助と指導が行える能力を養う。	1 前	30	1		○	

○		乳児保育	乳児期の子どもの成長発達（こころ・ことば・からだ）・環境・保育内容を学ぶ。 乳児期に保育現場に必要な技術を実技指導を通して身に付ける。 乳児保育に必要な知識（保護者支援・歴史と現状・児童福祉法・保育所保育指針）を学ぶ。	2 後	60	2		○	
○		障害児保育	障害の理解、障害幼児の受け入れ、家庭への子育て支援、就学と特別支援教育、障害幼児の保育の実際等について、障害児保育に関する資料や学習プリントなどを通して追求する。	1 後	30	2		○	
○		社会的養護内容	社会的に養護が必要な児童などの家庭的背景を学び、地域生活、施設生活それぞれの支援に対する理解を深めていく。	2 後	30	1		○	
○		保育相談支援	事例問題を通して保護者相談の実際を学ぶ。相談技法について、お互いのロールプレイを通して学ぶ。	2 後	30	1		○	
○		音楽表現 I	音を間違う、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけ、たとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける。	1 前	30	1		○	
○		図画工作	絵画表現の基礎を学び対象の見方、幼児の表現の傾向をよく理解し、最後まで作品を完成させる。作業の準備、用具の使い方を学び実践する。教材を独創に考える姿勢や能力を育てる。	1 通	30	1		○	
○		幼児体育	乳幼児の心の発達段階を理解し 多様な動きや遊具を活用しこども達に適した運動遊びを体験する。さらに自ら考え、アイデアを提示し、模擬指導へつなげながら指導の留意点を考える。	2 前	30	1		○	
○		言語表現	こどもが楽しめる表現や色使いを学び、専門的な知識技術を習得する。保育現場における児童文化財の重要性を考え理解し、教材作りを実践する。	2 前	30	1		○	
○		保育実習 I	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務について学ぶ。	2 通	160	4			○

○			保育実習指導Ⅰ	実習に向けての基本的な心構えを理解する。日誌の書き方、指導案の立て方を確認し自分なりに立てる。実習の振り返りをして課題や反省点を見つけ次に繋げる。こどもの前で演じる力を付ける。	1通	60	2		○	
○			保育実践演習	これまでの学びを振り返り、将来保育者として働くものとしての知識及びスキルを身に着ける。	2後	30	2		○	
○			リトミックⅠ	ピアノ技術向上と共に、写譜を通して楽譜についての基礎知識をつける。年齢別のリトミック指導をティーチングを通して獲得する。クラップやステップをすることで身体表現力を高める。簡単なリトミック遊びを身に付け実習や就職で役立たせる。	1後	30	1		○	
○			リトミックⅡ	リトミックⅠからの応用・発展。リトミック指導資格1級取得を目指す。	2前	30	1		○	
○			基礎実習	学校で学ぶ理論と保育実践のすり合わせを行いながら、子どもの発達や保育者の関わりを体験的に理解し、技術を習得する。社会人としての礼儀・常識についても気付き、身につける。	1前	80	2		○	
○			保育実習Ⅱ	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務について学ぶ。	2通	80	2			○
○			保育実習Ⅲ	児童福祉施設等（保育所以外）の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、児童福祉施設等の機能と保育士の職務について学ぶ。保育実習Ⅰで学んだ知識技術を活かし、より応用力のある援助や関わりを身につける。	2通	80	2			○
○			保育実習指導Ⅱ	子どもを深く理解し1人ひとりに応じた援助を行えるように、それぞれの年齢における発達過程の特徴を理解する。社会福祉施設が「子育て」の一端を担っている側面を知り、さらに子どもの理解を深めた上での振り返りを行う。	2通	30	1		○	
○			保育実習指導Ⅲ	子どもを深く理解し1人ひとりに応じた援助を行えるように、それぞれの年齢における発達過程の特徴を理解する。社会福祉施設が「子育て」の一端を担っている側面を知り、さらに子どもの理解を深めた上での振り返りを行う。	2通	30	1		○	

○	児童福祉Ⅱ	児童福祉の事例を通して子どもを取り巻く様々な問題と課題をまとめ、新しい児童福祉の施策と実践の方向を探っていく。	2 後	60	2	○	
○	乳児心理学	乳幼児の心理を知るために、「キーパーソン」と「キーワード」を軸にした学習をする。その中でそれぞれの領域で大きな業績を残した先哲たちの生涯と理論を学びながら、現代の子どもの発達と教育を考える。	1 後	30	2	○	
○	食育	子どもの食事に見る健康問題を正しく理解させ、子どもにとっての重要な食事の問題を理解できるように学習する。	1 後	16	1	○	
○	健康Ⅱ	教育学、心理学、医学の諸領域における知見に加え、新聞、テレビなどの報道の中から現代社会における子どもの健康への関心を向け、その問題に対する理解を深める。	1 後	30	1	○	
○	表現Ⅱ	幼児の心が創造豊かに、感情豊かに成長していくには、保育者はどのような環境を設定し、どのように援助すべきかを実践的表現活動を通して学ぶ。	2 後	30	1	○	
○	養護内容Ⅱ	・援助者自身を知り、大切にする。 ・子どもの発達とニーズを知る。 ・援助の理念、子どもの権利条約の意義を学び、援助の技術を学ぶ。	2 後	30	1	○	
○	児童文化	幼児時代の思い出をもとに「こどもの遊び」について検証し、玩具、遊具、絵本などの児童文化財についてその意義や扱い方を学ぶ。	1 後	60	2	○	
○	CST	乳幼児と長時間生活を共にする保育士にとって、子どもの行動すべてに注意を払わなければならない。人と人とのコミュニケーションをとることの重要さや、乳幼児に対する気配り心配りの大切さを身を持って知ることができる。	1 後	30	2	○	
○	音楽表現Ⅱ	音楽表現Ⅰに引き続き、ピアノ奏法や声楽の技術を磨き、レパートリーを増やす。	1 後	30	1	○	
○	音楽表現Ⅲ	音楽表現Ⅰ、音楽表現Ⅱに引き続き、ピアノ奏法や声楽の技術を磨き、レパートリーを増やす。また、コードネームを読み取り、簡易伴奏をつけられるようにする。	2 通	60	2	○	

	○		図画工作Ⅱ	描画とデザインの基本及び用具の使い方を学ぶ。	1 後	30	1		○	
	○		音楽基礎	幼児教育に必要な音楽的基礎知識を学び、器楽演奏や歌唱能力を養う。	1 通	60	2		○	
		○	情報処理Ⅱ	幼稚園や保育園などの教育機関において、名簿の作成ほか表作成からデータベースの処理が必要となるデータを作成する際に必要となる Excel の基本知識と技術を活用できる能力を身につける。	1 後	30	1		○	
		○	情報ネットワーク	幼稚園や保育園などの教育機関において、名簿の作成ほか表作成からデータベースの処理が必要となるデータを作成する際に必要となる Excel の知識と技術を活用できる能力を身につける。 MOS Excel2010 の検定合格を目指す。	2 後	30	2		○	
		○	教育実習事前指導	保育園と幼稚園の違いを明確に理解し、教育実習に相応しい知識・技術を身につける。意欲的に実習を行うための模範的な実習態度を身につける。	1 前	30	1		○	
		○	教育実習事後指導	実習後の振り返りや体験を通じての気づきやつまずきなど、修得すべき課題を明確にする。	2 通	30	1		○	
		○	教育実習Ⅱ	幼稚園の保育を実践的に体験し、幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を修得する。自分の理想とする教師像を具体的にイメージし、そのための自己課題を明確にする。	2 通	80	2			○
		○	子どもと体育Ⅱ	各種運動遊びの特性と実践的展開に必要な指導技術の基本を理解し対象に合わせた指導プログラムをたて、指導が出来るよう実際に模擬授業を行い授業の展開や方法について学習する。	2 後	30	1		○	
		○	子どもと造形表現Ⅰ	「えがく」「つくる」「造形遊び」などの題材や環境構成、援助の在り方について、知識と制作体験を関連付けながら学ぶ。	2 後	30	1		○	
		○	教育方法論	教育の方法及び技術の習得。「生きる力」を育むための教育方法について、歴史的概観、基本原理、授業の設計などを学ぶ。	2 前	30	1		○	

		○	教育相談	教育相談の理論及び教育相談をすすめる際の基本的態度・基本的姿勢を理解した上で、グループディスカッション・グループワークを通して、相談技法を習得し、教育実践に活かすことができる。	2 前	30	1		○	
		○	卒業研究	コードネームから伴奏付をし弾き歌うことで、現場でのピアノ表現を可能にする。また、子どものための歌作りを行い、自らの表現を譜面に起こすことで幼児教育に必要な音楽の在り方を学び、読譜力を養う。	2 後	30	1		○	
合計					75 科目	3148 単位時間 (118 単位)		